

上トス、蕪艾ト名ク、本邦ノ淡路モグサニ擬スベシ、蕪艾ハ今漢種アリ、江州伊吹山ノ艾、短小ニシテ香氣甚シ、故ニ其蕪艾最上品トス、因テ今モ世人伊吹モグサヲ上品トスレドモ然ラズ、今ノ伊吹艾ハ一名ヌマヨモギ、即陸璣ガ毛詩疏ニ説トコロノ蕪艾ニシテ艾ニアラズ、苗ノ高サ一丈餘ニシテ、葉モ長大ニシテ尺ニ過ギ、葉背ノ白毛殊ニ多シ、故ニ又ウラジロト呼ブ、香氣少クシテ艾ト異ナリ、用ユベカラズ、

〔今義解軍防五〕凡兵士每火、中火鑽一具、蕪艾一斤、

凡放烟貯備者、須收艾藁生柴等、謂艾者蓬也、藁者草總名也、相和放烟、略下

〔延喜式内藏十五〕凡典藥寮所獻昌蒲并艾、奏進之後、寮允已下參入撤之、

〔袋草子三〕曾禰好忠三百六十首歌云

なげやなげよもぎがそまのきりくす過行あきはげにぞかなしき、長能云、狂惑ノヤツ也、蓬ガ柚ト云事ヤハアルト云々、

〔琴後集十〕蓬が柚の記

あるじ海見のいへらく、略中われ此やどりを蓬が柚となん名づくといふ、略中かの長能の朝臣のそしりをば、いかにことわるべきぞといふとぞ、おのれ春村田こたへけらく、そはものになづみたるぬしかな、かの朝臣のうけひかざるは、耳なれぬ詞をいとふにこそ有けらし、されどかならずさること、のみも、さだめがたきよしあり、そもく歌の詞にいひふりて跡あること、あらたにつくり出ていひそむること、の二つあり、蓬が柚とはあらたにいひそめたる詞にて、古き跡によりたるにはあらず、そは蓬のまげう立るが、柚山の木のむれたるに似たれば、たとへていふなり、かの天つ星の數多きをあふぎて、星の林となづけ、みねの岩ほの並たてるをみて、岩垣といふらん、みなおなじたぐひなるべし、略下